

五雲会

平成三十一年一月十九日(土) 正午始
於 宝生能樂堂

演目の解説

能「田村」(たむら)
清水寺を訪れた僧は箒を手にした庭の縁起や、坂上田村丸の少年は清水寺の求めに、応じて返りの名所を語り、僧のあまりに詳しい物語に僧が名を尋ねるので、はつきり明かさず、田村堂の中に消え失せます。そしてその夜の夢の中に坂上田村丸が颯爽と現れ、清水観音に参詣した後、鈴鹿の鬼神を悉く平定した次第を、仕方話に語ります。時代を古代にとつた異色の修羅能。

狂言「蝸牛」(かぎゅう)
蝸牛(かたつむり)は長寿の薬とされておられ、主人が祖父に差し上げようと太郎冠者に言いつけて探しに行かせます。ところが蝸牛を知らない太郎冠者は、藪の中に寝ていた山伏を「蝸牛ではないか」と思い込んでしまします。人の悪い山伏は、いかにも自分が蝸牛だと言つて太郎冠者をからかい、迎えに来た主人も山伏の囃す調子に釣られてしまします。

能「羽衣」(はろも)
長閑な春の三保の松原。漁師白竜は、松の枝に美しい衣を見つけ、持ち帰ろうとしますが、世にも美しい女が「それは私の物ですから返して下さい」と呼びとめます。白竜は衣の主が天女であることを知り、もつと頑なになり返そうとしますが、天に帰れなくなつたと、天女があまにも悲しむのを見て、舞を見せてくれるなら返そうと言います。舞うためには衣が返そうという天女の言葉を一且は疑う白竜でしたが、天には偽りは無いと言われ衣を返します。

能「小鍛冶」(こかじ)
帝の霊夢によつて剣を打つ事を命ぜられた三条小鍛冶宗近は、自分に比肩する程の相槌がないことに困り、氏神である稲荷明神に詣でます。そこに現れた童子は、帝から宗近に勅諭があつたことを既に知っており、名剣の謂われを語つて宗近を励まし、剣を打つ台を用意して待て、必ず助力のために参上すると約束して去ります。宗近が待つていと稲荷明神が神狐となつて現れ、協力して剣を打ち上げます。

15:20
田村 優
シテ水上

ワキ 大日方 寛
ワキツレ 野口 能弘
野口 琢弘
問 山本 則重

大鼓 柿原 孝則
小鼓 住駒 充彦
笛 成田 寛人

後見 宝生 和英
武田 孝史

地謡 上野 能寛
川瀬 隆士
當山 淳司
東川 尚史

和久莊太郎
渡邊 茂人
小倉伸二郎
高橋 憲正

14:00
羽衣 雄二
シテ亀井

ワキ 館田 善博
ワキツレ 高井 松男
梅村 昌功

大鼓 柿原 弘和
小鼓 飯富 孔明
太鼓 桜井 均
藤田 貴寛

後見 亀井 保雄
辰巳満次郎
金野 泰大

地謡 木谷 哲也
辰巳 和磨
辰巳大二郎
藪 克徳

小倉健太郎
今井 泰行
藤井 雅之
佐野 玄宜

へ 休憩 十五分 へ

15:25
小鍛冶 甫
シテ田崎

ワキ 村瀬 提
ワキツレ 村瀬 慧
問 若松 隆

大鼓 亀井 広忠
小鼓 曾和伊喜夫
太鼓 澤田 晃良
笛 栗林 祐輔

後見 大友 順
金森 良充
今井 基

地謡 朝倉 大輔
金森 隆晋
佐野 弘宜
内藤 飛能

小林 晋也
朝倉 俊樹
山内 崇生
澤田 宏司

終演予定 午後四時二十五分頃

次回予告

平成三十一年二月十六日(土) 正午始

西王母	藤井 秋雅
花月	小林 晋也
船橋	内藤 飛能